

木材リユースによる既存木造建築物の活用 (総プロ:R7-R10)

背景・問題点

木質材料のリユースは森林資源の長期使用に繋がり、更なる炭素固定に貢献するが、既存技術基準ではリユース木質材料の品質や強度等を確認する仕組みが確立されておらず、再利用が困難となっている。また、リユース木質材料の活用方法が検討されていない。

目的(実現したい世界)

- リユース木質材料の強度や健全度を評価するガイドラインが整備されていること
- リユース木質材料の活用方法が広く知られていること

研究内容

- リユース木質材料のうち、集成材の強度・劣化度・健全度を適切に評価する方法を開発する。
- リユース木質材料の活用方法を開発する。

R7年度の研究成果

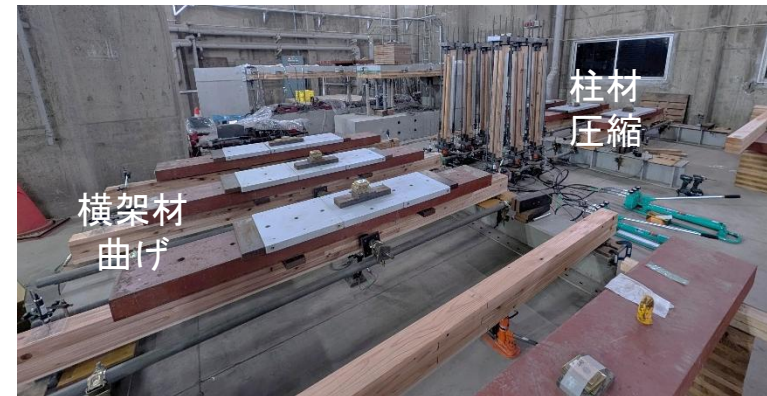
- 試験環境として屋内と、木質材料のJASに定める使用環境を考慮した屋外で実験を実施する計画を立案。
- 適正に強度管理した試験体を用いた屋内実験開始(写真)
- 屋外環境での木質材料(柱材)の劣化度合の確認実験を開始

R8年度以降の計画

- 適正に強度管理した試験体を用いた屋外実験の実施
- リユース木質材料の活用方法に関する情報収集



木質材料のリユースの概念図



適正に強度管理した木質材料(集成材)を用いた屋内実験
(クリープ試験、横架材・柱)